G-TEKT CORPORATION

CSR報告書2017

株式会社ジーテクト

未来の地球のために、
ジーテクトは歩みを進めます。

社是

人間性尊重　技術革新　堅実経営

行動指針

- 愛情と相互信頼をモットーに自己啓発に努めよう
- 先進技術を追求し良質廉価な製品を提供しよう
- 自主性をもち英知と機敏さで社会に貢献しよう

経営ビジョン

先進技術と良質廉価技術の融合で低炭素社会に
貢献し、世界中のお客様に満足される企業

CONTENTS

イントロダクション

- 社是・行動指針・経営ビジョン 01
- 目次・編集方針 02
- トップメッセージ 03

会社情報

- 会社概要・主要部品・グローバルネットワーク 05
- CSR基本方針 06

特集

- **第3次中期経営方針** 07
- **北米地域の社会貢献活動** 09

コーポレートガバナンス

- コーポレートガバナンス基本方針・リスクマネジメント・株主・投資家とのコミュニケーション・特定したマテリアリティ「コーポレートガバナンスの強化」対応 11

情報管理

- 情報セキュリティの目的・基本方針・教育 13

安全衛生

- 安全衛生方針・避難訓練など 14

品質

- 品質方針・品質保証体制など 15
- お客様満足向上の方針・購買・CSR調達方針・「ジーテクトサプライヤーCSRガイドライン」の発行・取引先とのコミュニケーション・社員コメント 16

人権・労働

- 人材育成基本方針・人材育成制度・ダイバーシティなど 17

環境

- 環境理念・環境方針・特定したマテリアリティ「環境配慮製品・技術の開発」対応・社員コメント 18
- 環境マネジメント体制 19
- 環境ロードマップ・マテリアルフロー 20
- データ 21
- 環境改善取り組み 22
- 生物多様性の取り組み 23

社会貢献

- 社会や地域への貢献活動・海外での取り組みなど 25

第三者意見

- 第三者意見 26

編集方針

発行目的

ジーテクトは、持続可能な社会の実現に向け「ジーテクトフィロソフィー」を基盤にしたCSR活動についてステークホルダーの皆さまにお伝えするため、CSR報告書を発行いたします。こうした非財務情報開示により当社のCSR活動について理解を深めていただくことを目的としています。

当社のCSR報告書は、事業活動の中で重要となる独自のCSRテーマを定め、その取り組み報告をまとめています。ステークホルダーの皆さまとの重要なコミュニケーションツールのひとつに位置づけ、今後もさらなる充実に努めてまいります。

参考にしたガイドライン

・ISO26000　・GRI(Global Reporting Initiative)「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン」　・国連グローバル・コンパクト
・環境省「環境報告ガイドライン」

対象期間

2016年度(2016年4月1日～2017年3月31日)
ただし、一部で過去の取り組みや直近の活動も記載しています。

対象範囲

海外を含めたジーテクトグループ全体を対象範囲としています。

公開時期

2017年6月(次回予定2018年6月)

お問い合わせ先

株式会社ジーテクト　経営企画室
〒330-0854
埼玉県さいたま市大宮区桜木町一丁目11番地20
大宮JPビルディング18階
TEL 048-646-3400(代)

top message
トップメッセージ

持続可能な社会の実現をめざして

ジーテクトは2017年4月より第3次中期をスタートさせましたが、新たな3カ年の船出を迎えるにあたり、我々が向かうべき方向を指し示す2020年ビジョンに「3つの分野におけるイノベーション(革新)」と普遍的な目標である「持続的な成長と進化」を新たに付け加えました。

3つの分野におけるイノベーションで競争力と企業体質を一層強化し、将来に亘り持続的に成長することを目指してまいります。

“持続可能な社会”の実現に向けては、企業が持続的に成長し社会的責任をしっかりと果たしていくことが何より重要であると考えております。

ステークホルダーの皆様におかれましては、今後ともご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。

CSR活動強化

ジーテクトはCSR活動を一層強化することを目的に、海外拠点を含めた推進体制を明確に組織致しました。また、これまでの環境テーマをメインに扱う「世界環境安全会議」を、CSRテーマ全般について討議する場として「グローバルCSR会議」へと進化させます。一般的にCSR活動は欧米企業が熱心に取り組んでおられると

言われますが、当社はグローバル企業としてグループ全体でCSRに取組む風土を作ってまいりたいと思います。

コーポレート・スローガン

今後もジーテクトが持続的な成長と進化を続けるためには、CSR活動を通じて社会的責任を果たすことと、時代を先取りする革新的な技術やアイディアが重要だと考えます。

私たちの造っている物は、単なる自動車部品ではございません。私たちの形づくるものは、これから訪れるであろう未来の姿そのものであります。

常に時代の先を読み、時代の求める付加価値の高い技術を追い求め、これまでに無い、革新的な製品を世界に提案し続けることで、人とクルマと地球の未来の姿を形づくっていきたいと思っています。

その思いを具現化する強い意志を表す言葉として、「Shape the Future」(未来を形づくる)を掲げました。

今後もジーテクトは積極的なCSR活動を通じてステークホルダーの皆様のご期待に応えてまいります。

2017年6月

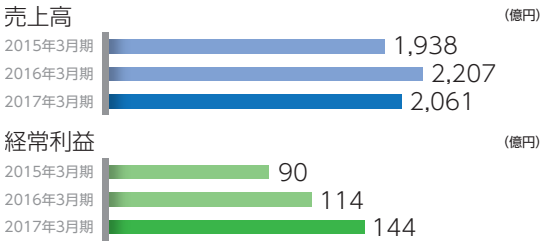
代表取締役社長　高尾 直宏

corporate data

会社情報

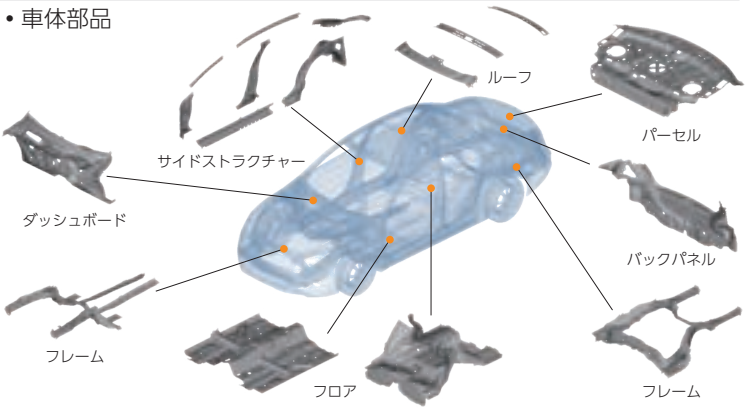
会社概要

社　　名	株式会社ジーテクト
設　　立	2011年4月1日
資 本 金	4,656,227,715円
代 表 者	代表取締役社長 社長執行役員 高尾直宏
事業内容	自動車車体部品、トランスミッション部品の製造販売、金型・溶接設備等の製作販売
従業員数	連結 7,731人（国内1,181人） （2017年3月31日現在）

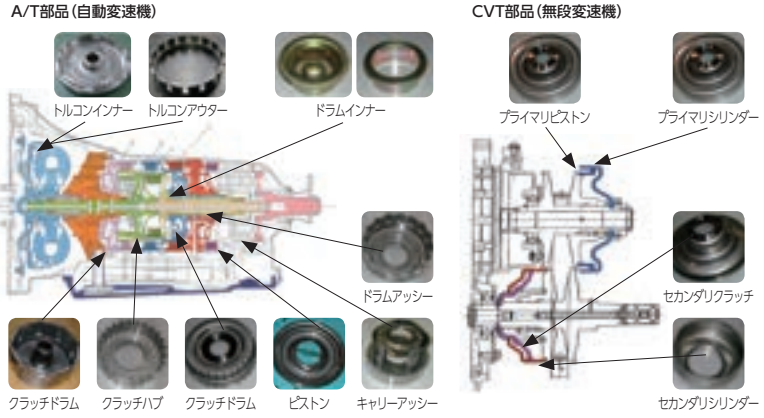


主要部品

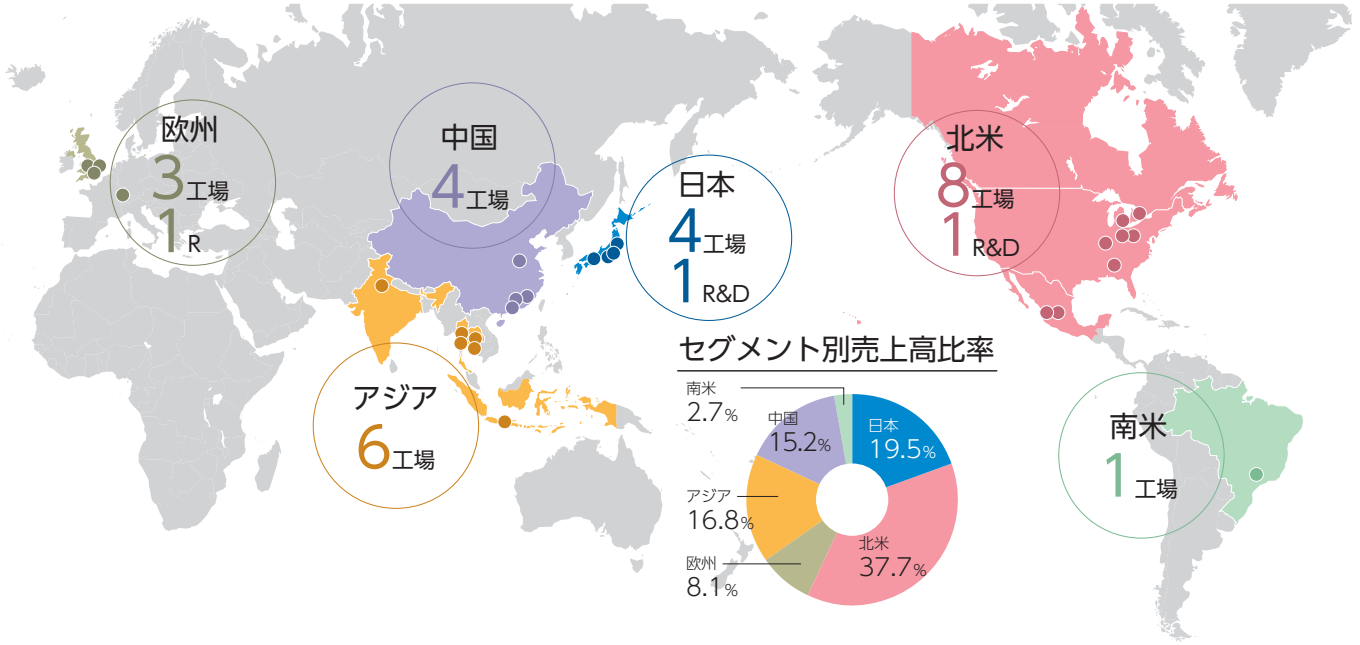
• 車体部品



• トランスミッション部品



グローバルネットワーク



G-TEKT corporate social responsibility

ジーテクトのCSR

CSR基本方針

当社は「道義的」「社会的」に責任が深まるなか、CSR活動を通じ社会と共に持続的成長をし、存在を期待される企業になる。

社会からの期待により果たすジーテクトの責任

4つの基本領域	7つのCSRテーマに細分化	テーマ	CSR
企業統治の充実により公正で透明な事業活動をする	→	コーポレートガバナンス	事業活動の透明性を高め積極的な対応と開示を心がけます。
		情報管理	機密管理体制を強化し信頼される企業風土を築きます。
安全で快適な環境により良質製品を提供する	→	安全衛生	安全で快適な職場環境を構築いたします。
		品質	お客様のニーズを満足する信頼される製品を継続的に提供します。
人材を尊重し人権配慮と労働環境の改善をする	→	人権・労働	従業員の個性を尊重し、公平・公正で働きがいのある職場づくりに努めます。
地球環境の保全と地域社会への貢献をする	→	環境	地球環境の保全を最優先とし、低炭素社会の実現を目指します。
		社会貢献	地域社会との共生で次世代へ引き継げる社会貢献を継続します。

ステークホルダーとのかかわり

当社のステークホルダーであるお客様、従業員、取引先、地域社会、株主・投資家の皆様に存在を永続的に期待され、信頼される企業であるために、当社社員が共有する行動指針として「わたしたちの行動指針」を制定し、社員一人ひとりが社会の一員として、自動車産業の一翼を担う企業の一員として、自覚を持って行動することを心がけています。

ステークホルダーに対する基本姿勢

お客様
当社製品の納入先であるお客様に対して、欲しい物を欲しい時に欲しいだけお届けすることで信頼されるパートナーであり続けます。

従業員
人間性尊重の理念のもと、従業員一人ひとりが仕事にやりがいを感じ、いかなるハラスメントも許さない、安心、安全で生き生きとした職場づくりを目指します。

取引先
公正で合理的な方法で取引を行い、当社の生産活動のために欠かすことのできないパートナーとして、互いに尊重し合いながら協力関係を構築します。

地域社会
社会貢献活動への参加等を通じて積極的に地域住民との融合と調和を図り、相互理解に基づく良好な関係づくりを目指します。

株主・投資家
迅速・公平な情報開示をモットーとして、株主・投資家と積極的に対話する機会を設け、より一層の企業価値の向上と適正な株価の形成に努めます。

マテリアリティの特定

ジーテクトの事業活動が社会に及ぼす影響を把握し、影響の可能性や影響そのものを管理しながら事業活動を行うべきと考え、2016年時点での重要な側面を特定しました。特定したマテリアリティに対してはマネジメント方法を整理・強化し、第3次中期計画において、その方針にこれらを反映致しました。

特定した4つのマテリアリティ	•コーポレートガバナンスの強化 •人材育成	•環境配慮製品・技術の開発 •環境マネジメント

第3次中期経営方針

2020年Vision G4-20「持続的な成長と進化」へ

ジーテクトは従来より2020年ビジョンとして『G4-20』を掲げ、融合の促進や競争力ある物造り体質の構築を進めて参りましたが、今回、ジーテクト第3次中期を迎えるにあたり「Genba」「Global」「Grow up」「Green」の4つの領域の進化を、加速度的に進める為の「３つの分野におけるイノベーション」と普遍的な目標である「持続的な成長と進化」を追加いたしました。

また、昨年特定しましたマテリアリティに対して、これまで取り組んで参りました「コーポレートガバナンスの強化」は引き続きグローバルで継続すると共に、その他のマテリアリティに関しましても、各分野のイノベーションをもって対応を図ってまいります。

3つの分野におけるイノベーション

技術イノベーション

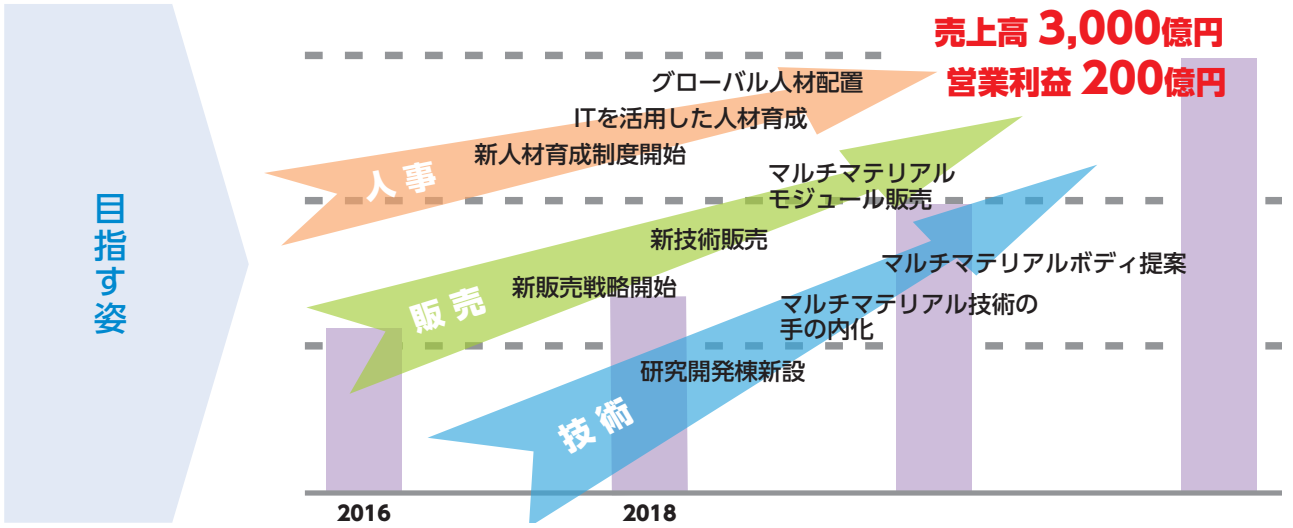
マルチマテリアルボディ技術などの先進技術開発や、そのグローバル展開の為の中心的な役割拠点として『GTL（ジーテクト東京ラボ）』を新設。GTLでは、環境に配慮した製品開発を念頭に、革新的な新技術をもって拡販に繋げ、環境に、人に優しい製品造りに取り組みます。

販売イノベーション

従来の日本と各拠点の営業部隊を基本とした日本中心の営業スタイルから一線を画し、本社で販売戦略を立案し、各地域本部が連携する事により、地域と地域をつなぐグローバル規模の販売新体制を構築。日系メーカーだけでなく、各グローバルカーメーカーへの技術的ニーズと地域的ニーズに応えていきます。

人事イノベーション

新人事制度では、年功制を廃止し、より一層厳格な昇格審査や業績評価を取入れました。新人材育成制度では、将来のキャリアプランを見据え、新入社員研修時から全てのカリキュラムを見直し致しました。この２つの制度とそれを支援するデジタルツールを活用し、「グローバル経営人財」及び「次世代経営陣」の育成に力を入れてまいります。



「GTL（ジーテクト東京ラボ）」新設

コンセプト
- 新たな研究環境で、技術イノベーションを加速
- 魅力ある研究環境で、新たな発想を持つ人材の確保

＜完成予想図＞
所在地：東京都羽村市　完成時期：2018年3月

自動車部品メーカーからボディメーカーへ

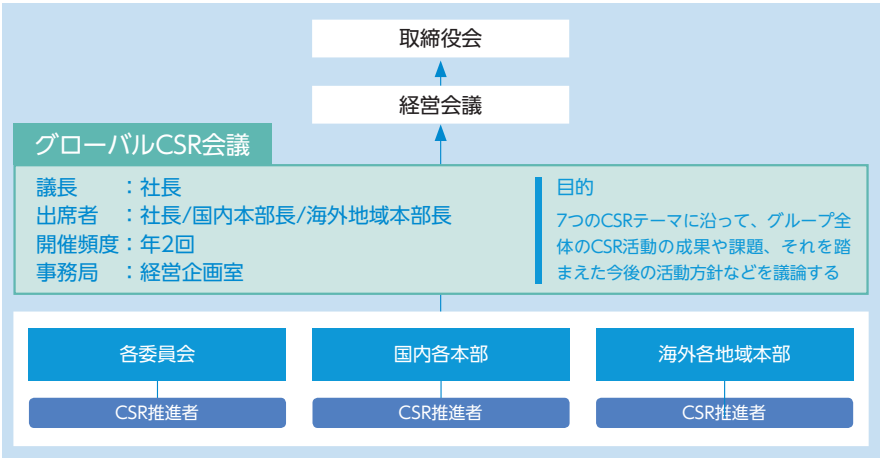
充実した研究施設でジーテクトの開発力を飛躍的に高めます。新設されるGTLでは、革新的な新技術開発はもちろんのこと、ボディ1台解析技術に磨きを掛け、ジーテクトの考える軽量高剛性ボディを具現化してまいります。

これにより、ジーテクトはボディ1台提案が出来る“ボディメーカー”へ進化します。

CSR活動の強化

CSR体制強化

体系的なCSR活動を目指して、ジーテクトはCSR体制を見直しました。本社経営企画室にCSR事務局機能を設けると共に、国内の各委員会・各部門及び海外の各拠点にCSR推進者を置くことで、経営層から発信される活動方針を全社展開出来る体制と致しました。全ての従業員がCSRへの理解を深めることで、積極的なCSR活動に繋げます。



グローバルCSR会議

CSR活動強化の一環として、今期よりグローバルCSR会議を開催（年2回）。社長を議長とし、海外の地域本部長も参加するグローバルCSR会議では、グループ全体の様々な活動内容の確認や課題の共有を通じて、今後の方針や取り組みを討議してまいります。持続可能な社会の実現に向けて、ジーテクトでは経営層が率先してCSR活動に参加しています。

従業員の VOICE

女性活躍に向けたCSR活動

経営企画室　大久保　育美

1年間の工場実習を経て、4月より経営企画室に配属され、社会人2年目を迎えました。工場から本社に移り、勝手が異なるため戸惑うことも多く、日々勉強しています。人生においてもまだまだ勉強が必要な身である為、仕事と私生活の両立に向けても奮闘中です。当社は自動車部品メーカーという事もあり、女性の比率が少ない傾向となっています。そんな中でも先輩女性社員は、結婚・出産・子育てと様々な人生の局面と向き合いながらキャリアを築いています。私自身、先輩方のようなモデルケースとなれる様、努力し、そして、CSR活動を通して、女性がより働きやすい職場づくりを目指したいと思います。

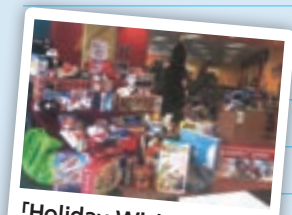
北米地域の社会貢献活動

ジーテクトグループでは、持続的な成長と進化を目指し、地域との交流や社会貢献活動を通じて、企業の社会的責任を果たしてまいりたいと考えています。
今回は、海外の社会貢献活動の中から北米地域のG-NAC、JIC、JEC、JSCにスポットを当て、様々な活動を紹介します。

G-NAC North America Corporation

私は、G-NAC（当社）が行う地域貢献活動をとても誇りに思っています。
G-NACでは体の不自由な方やお年寄り等の方々に対して、温かい食事を宅配する「ミールズ・オン・ホイールズ」活動を行っています。また、「オペレーション・バックパック」活動では、子供達の学校生活がスムーズにスタートするよう学校用品を寄付しました。「ブランチアウト」活動と言う、地域の植林イベントにも参加しています。
私達はこれからも様々な地域貢献活動を実施して行きたいと思います。
次に私達が行っている活動の一部を紹介します。

G-NAC 人事部　マネージャー　**Tami Grywalski**



「Holiday Wish」

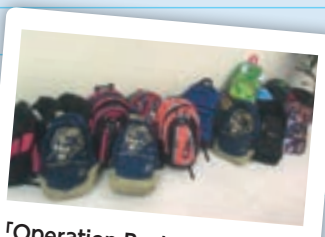
2016年11月
このイベントはクリスマスの贈り物として、子供達へおもちゃを提供しました。

「Red Nose Event」

2016年5月
貧しい子供たちを支援する活動に参加。

「Meals on Wheels」

2016年6月、8月
体の不自由な高齢者や障害者の方々に対し、食事を準備し提供しました。



「Operation Backpack」

2016年7月
子供達を支援する活動です。G-NACで16個のバックパックを寄付。子供達は新しい学校生活をスタートしました。

「Dublin Irish Parade」

2017年3月
市で行われるパレードに毎年参加をし、地域との交流をしています。

「Branch Out Columbus」

2016年10月
コロンバス周辺のコミュニティに木を植えるといった活動をサポートしました。

JIC

Relay for Life Walking

2016年6月
アメリカ癌協会マディソン郡支部主催のチャリティーウォークへ参加。癌患者や介護者の方々の功績を称えるとともに癌撲滅を願い、JIC従業員有志が午後6時より翌日午前1時まで、West Jefferson高校を歩きました。また、アメリカ癌協会へ寄付するために募金活動を実施しました。

Blood Drive

毎年2回
社内に会場を設け、従業員からの献血を実施しています。

Canned Food Drive

2016年11月
Thanksgiving(感謝祭)の祝日を迎えるにあたり、社内部門間の缶詰競合イベントを行い、食料缶を集め地元の食品支給センターに寄付をしました。

※その他、地元行政・警察・学校へのサポートとして寄付活動を行っております。

JEC

Charity Raffle for Chance to Win a set of tickets

2016年6月
有名アーティストのコンサートチケットを購入し寄付を募って参加者の中から抽選でチケットが当たるというものです。集まった寄付金は地域に建設される総合病院へ寄付しました。

健康週間

2016年6月
ヨガを行ったり、従業員とともに健康について考えます。

Donation-Sock Program

通年
靴下を忘れてきた従業員に靴下を販売し、集まった金額を肝臓病基金に寄付をしています。

※その他、地域清掃活動や様々な団体へ「Matching Gift」を行っております。
また、夏休みの期間を利用して、学生を臨時的に雇い入れ、就労場所を提供しています。
Matching Gift；非営利団体へ従業員が寄付をした金額の半額を会社が同団体に寄付をする。(上限あり)

JSC

Angel Tree Project

2016年12月
小学校と協力し、子供たちにクリスマスプレゼントを準備・寄付をする"天使"になる活動を行いました。"天使"になることで子供たちにたくさんのプレゼントを届けることができ、地元新聞にも取り上げられました。

地元の工業団体より、地域住民の雇用確保や地域貢献活動を評価され「Polk County Industry of the Year」を受賞しました。

5km Zombie Dash

2016年11月
子供らからお年寄りまで、地域住民と一体になり非常に盛り上がったイベントとなり、集まった寄付金は地元施設のアスレチック補修に使われました。

※その他、地元学校や高校での奨学金制度へ寄付活動を行っております。

corporate governance

コーポレートガバナンス

事業活動の透明性を高めるため、積極的な対応と開示を心がけています。

コーポレートガバナンス基本方針

当社は、お客様をはじめ、従業員、株主・投資家、社会から「存在を期待される企業」となるために、社会的責任を有する企業として、経営の重要性を認識し、透明・迅速・公正、果断かつリスクを勘案した意思決定を確保する組織・仕組みを整備し、全てのステークホルダーとの信頼関係を構築していくことが、経営の最重要課題の一つとして認識しております。

より実効性の高いコーポレートガバナンスの実践と、継続的な改善の取り組みにより、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指してまいります。

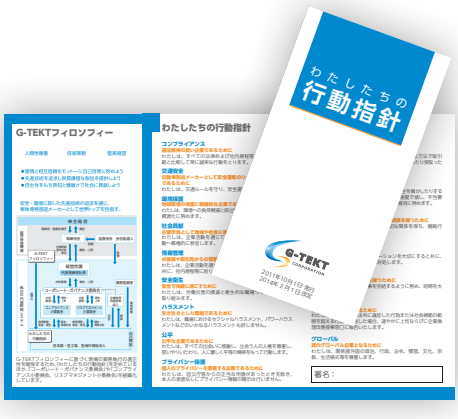
▶コーポレートガバナンス基本方針はこちら
URL http://www.g-tekt.jp/company/pdf/governance_guideline.pdf

コーポレートガバナンス・コード

「攻めのガバナンス」の実現を目指して策定されたコーポレートガバナンス・コードに対しましては、その趣旨を踏まえ、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に向けて、当社の経営に最も効果的なガバナンス体制を構築するため、当社のコーポレートガバナンスに関する基本的な考え方、枠組み、運営方針を示す「G-TEKTコーポレートガバナンス基本方針」を取締役会において決議し、コーポレートガバナンス報告書にて開示しております。

▶コーポレートガバナンス報告書はこちら
URL http://www.g-tekt.jp/company/pdf/governance_report.pdf

「コーポレート・ガバナンス報告書」

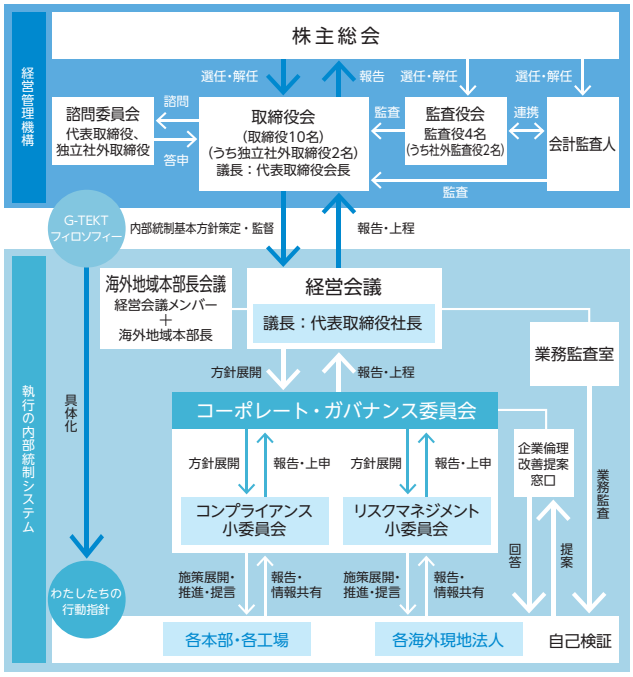


「わたしたちの行動指針」

コーポレートガバナンス体制

内部統制システムを含むコーポレートガバナンス体制は次の図のようになります。

■ コーポレートガバナンス体制図



コンプライアンス

遵法精神の高い企業であるため、全ての法律および社内規程等を遵守し、社会規範として常に誠実な行動をとるように心がけています。コンプライアンスをステークホルダーの期待に応えるという視点でとらえ、従業員一人ひとりが高い倫理観を持って行動するための指針として「わたしたちの行動指針」を作成し、従業員に周知徹底しています。コンプライアンスの浸透・定着のための推進活動をはじめ、不祥事の未然防止や早期対応、コンプライアンス徹底に向けた継続的改善を行い、一層の定着を図っていきます。

リスクマネジメント

事業活動を健全に遂行していくため、経営を取り巻くさまざまなリスクを把握・分析し、適切なリスクコントロールに努めています。当社の事業運営上のリスクは多様化し、その管理の難易度は高くなっていますが、リスク状況の適切なモニタリングの確保やリスク管理に関する横断的な課題対応ならびに水平展開を目的としたリスクマネジメント小委員会をコーポレート・ガバナンス委員会の下に設置し、リスクマネジメント活動を推進しています。

直近では、地震などの大規模災害を想定し国内各工場ごとに、それぞれBCP（事業継続計画）を策定するなど、万が一の場合でも迅速な復旧が図れるよう準備しております。

株主・投資家とのコミュニケーション

株主様向け工場見学会の様子

株主・投資家への情報公開については、迅速・公平をモットーに日々の開示業務・IR活動を行っています。

また、株主・投資家の皆様に対して、ジーテクトという企業に対する理解を深めていただくためには、積極的にコミュニケーションをとることが重要であると考え、株主総会における株主懇談会や、機関投資家向け決算説明会・個別IR訪問のほか、個人投資家向け会社説明会・株主様向け工場見学会などを開催して、経営者自らが株主・投資家と対話する機会を設けています。

そのほか、当社ホームページのタイムリーな更新や、株主通信の発行などを通じて、株主・投資家の皆様にジーテクトの事業活動に対する理解を更に深めていただくと共に、株主アンケートの実施や株価情報などによって得られる当社の評価に目を向け、あるべき企業の姿を目指しています。

IRサイト

株主通信

特定したマテリアリティ「コーポレートガバナンスの強化」対応

世界中に拠点を展開している当社にとって、一つの拠点でもガバナンス体制が崩れてしまえば、ジーテクトグループ全体としての健全なガバナンス体制は成り立ち得ません。そこで当社では、チェックリストを用いるなどして定期的に各海外拠点のガバナンスの状況を確認すると共に、本社と現地とで随時情報交換を行うことで課題の共有や改善施策の検討を行い、ジーテクトグループ全体のガバナンスレベルの維持向上を図っています。

information management

情報管理

機密管理体制を強化し、信頼される企業風土を築きます。

情報セキュリティの目的

情報漏洩防止のための基本ルールとしてセキュリティポリシーを制定する事により全世界のジーテクト社員が、情報資産を守り抜く意識を高め、時代の変化に対応できる情報セキュリティ体制を構築しています。

情報セキュリティの基本方針

当社の情報資産を守る為に、下記内容を基本方針とする。

- 情報漏洩のリスクを理解して行動する。
- 全世界のジーテクト社員が、場所・利用技術に関係なく、同じセキュリティポリシーの下に情報管理・漏洩防止を行う。
- 情報漏洩事例などのリスク情報は全世界で共有し、且つセキュリティポリシーに反映し、ジーテクトでの漏洩防止、再発防止に役立てる。
- 新しい情報管理・処理に関係する仕組みを構築する際は、セキュリティポリシーの考え方を遵守する。
- 社会環境の変化に迅速に呼応し、先取りで対応を行っていく。
- セキュリティポリシーは常に見直しを行う。

情報セキュリティ教育

当社の事業を運営するに当たり、各取引先様や当社自身の機密情報あるいは、社員の個人情報等、外部に漏洩させてはいけない様々な情報が多く存在しております。基本的に情報漏洩等は、社員の機密管理に対する意識低下に起因する事が大きいと考えられており、この為、情報漏洩防止に向け社員に対し機密管理に対する教育を定期的に実施しております。教育方法としては、セキュリティポリシーの主な内容をまとめた「情報管理10ケ条」の読み合わせや、社内報での周知を実施しております。

社内報「ジーテクトニュース」より

safety and health law

安全衛生

当社で働く全ての人が、安全で快適な職場環境を構築いたします。

安全衛生方針

安全衛生活動は、企業経営の基盤であり、我が社で働く人及び地域社会の安全・健康に及ぼす影響を最小限となるよう企業活動の安全衛生を管理し、自負できる職場を目指します。

1．安全衛生関係法令及び社内基準を遵守し、より一層の安全衛生管理に努めます。

2．職場の危険有害要因の明確化と対策の優先度を定めるリスクアセスメントを実施し、“災害ゼロ”から“危険ゼロ”の安全で快適な職場へ進化させます。

3．全社員のみならず、協力メーカー/関係者の協力の下にコミュニケーションを図り、全員参加の安全衛生活動を実行していきます。

4．従業員の教育及び啓蒙活動を通じて、安全意識の高揚に努めます。

5．安全衛生活動の実行に当たっては、適切な経営資源を投入し、効果的な改善を継続的に実施します。

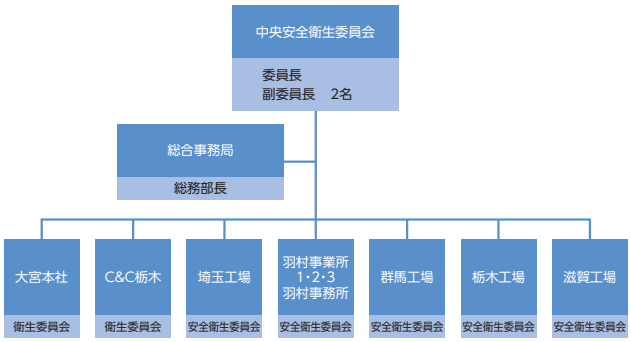
従業員安全講習

毎年7月に「安全大会」を開催し、労働災害、交通事故等の災害に対して過去の災害事象の振り返りを行うと共に、災害・事故ゼロに向けて意識向上を図っております。

また、従業員が災害・事故防止への意識を常に維持しながら日々の作業にあたれるよう、他拠点の事故について情報の共有、同業他社の事故事例の情報共有を図っております。

受講風景

■ 中央安全衛生委員会組織図



避難訓練

火災、大規模地震に備え、日頃から防災意識を高め、また、従業員の身体、生命を守るため、各拠点において避難訓練を定期的に実施しております。地域の消防署と連携し、初期消火、通報、避難の一通りの訓練を実施し、いざという時に備えております。合わせて、AEDによる救命訓練も実施すると共に、非常用食料も備蓄し帰宅困難者に対して備えをしております。

大宮本社避難訓練

訓練の様子

フォークリフト運転の安全取り組み

当社の工場構内では、製品運搬のために多くのフォークリフトを使用しています。

フォークリフトの事故は死亡事故に繋がる危険性が高く、安全運転・安全作業には特に力を入れております。当社では『フォークリフト運転技能講習修了証』を保有している作業者に対して、更に独自の社内運転許可制度を取り入れ、毎年試験を行い、安全運転の技能と意識向上に努めています。昨年度はフォークリフト作業従事者に対し、過去の事故に対する振り返り教育を行うと共に、『決め事の守りきり』の重要性を認識する社内講習会を実施しました。

フォークリフト作業安全講習

quality

品質

お客様のニーズを満足する信頼される製品を継続的に提供します。

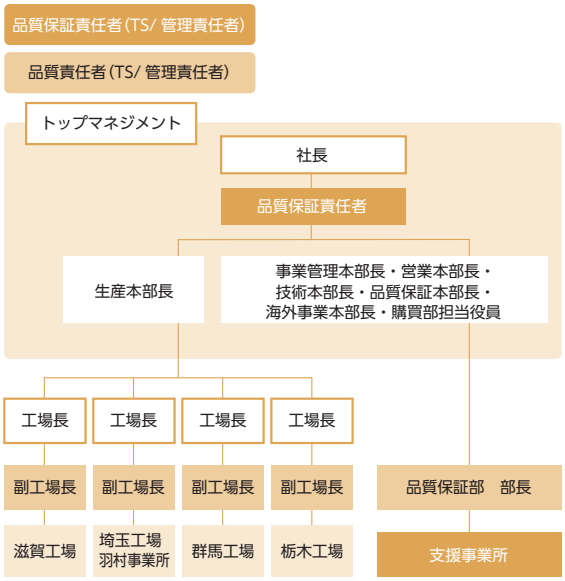
品質方針

品質至上を経営の基軸として、お客様に感動製品を創造し提供する。

品質保証体制

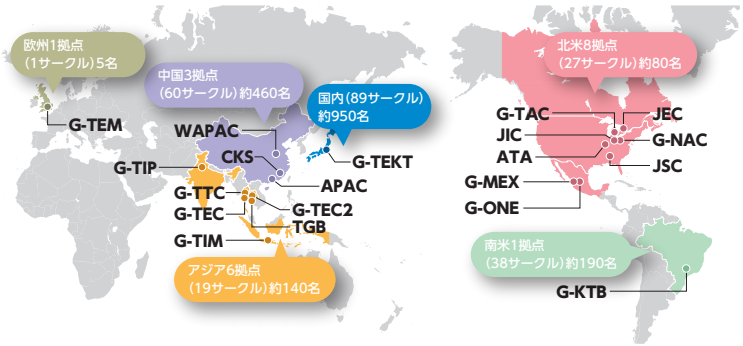
顧客を満足させる高品質な製品を作り上げる為に、G-TEKT全19拠点での「1保証体制1マニュアル」を確立しています。また各拠点が、このルールに適合することで拠点間の品質保証システムの水平展開を図ることができ、生産活動だけでなく物流まで含めた品質保証に貢献できます。

■ ISO/TS16949の国際規格に基づいた品質マネジメントシステム



G-TEKT サークル

当社グループでは教育を目的とした小集団活動を自主的かつ積極的に行い、継続的に製品・サービス・仕事などの質の管理・改善を行っております。



G-TEKTサークル世界大会

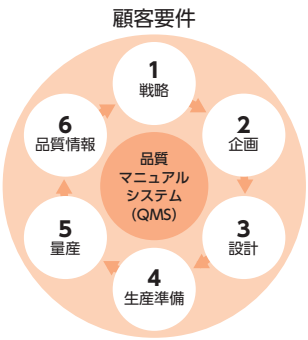
毎年秋に全世界から選抜されたサークルが日本に一堂に会したG-TEKTサークル世界大会を開催しています。全世界で改善事例を共有し、国際的な人材育成を行っています。

IATF16949 認証取得

ISO/TS 16949は2018年9月14日に規格が失効するため、2017年4月現在、ISO/TS16949の認証取得をしている拠点については、2018年の失効時期までに、新たな自動車産業品質マネジメントシステム規格であるIATF 16949規格への認証移行を拠点毎に推進していきます。認証移行の完了後は、従来よりも更に高度な品質マネジメントシステムでお客様の要求品質に応えることができます。

品質向上の取り組み

■ 品質保証システム



1 戦略
・お客様の新機種情報を収集し、新技術や品質保証等の面で計画立案をします。
・お客様よりいただいた新機種情報に対し改良案やコスト削減案をご提案し、お客様と共に製品を「共創」します。

2 企画
・顧客要件に基づいた設備の投資・設計・生産性・新技術などを検討し、安くて良い製品を作るため社内で評価を行います。

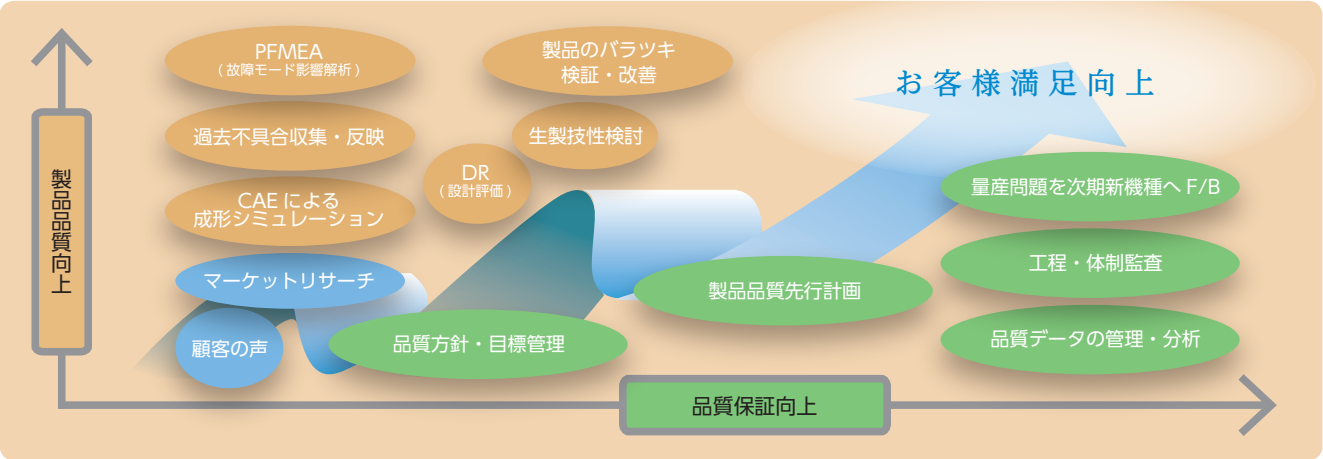
3 設計
・設備や品質など各部門の管理計画の作成・準備を行い、企画段階のことが行われているか設計審査を行います。

4 生産準備
・企画構想に基づいた金型・溶接ラインを作り、試作品を製作して専用設備の準備・検証・評価を行います。1点ずつ検証し、製品の確からしさ検証を行います。

5 量産
・企画段階の目標値が量産で達成できたかどうか、品質・コスト・デリバリーの面から評価を行います。
・製品の品質確認、設備のメンテナンスや点検を確実に実施します。

6 品質情報
・品質関連情報を集約し品質改善につなげます。また、次機種に反映するため企画段階へフィードバックを行い未然防止に役立てます。

お客様満足向上の方針



購買・CSR 調達方針

調達先の法令遵守や環境配慮、さらに人権や労働環境への取り組み状況について取引の基準とするCSR調達に対する意識を高め、法令を遵守し環境に配慮したモノづくりの考え方をサプライヤーの皆様にも共有していただく。

活動指針

1. CSR調達方針およびガイドラインの策定
2. 調達先の現状調査の実施
3. 調達先への是正・改善措置の提案及び実施
4. 調達先監査の実施

「ジーテクト サプライヤー CSR ガイドライン」の発行

CSR活動に当たっては、環境問題にとどまらず法令遵守・人権尊重・労働安全・品質などサプライチェーン全体の活動が重要となっております。これまでもサプライヤーの皆様とともに取り組んで参りましたが、ジーテクトのCSRの考えをより鮮明にし、より深く共有いただく為に、2016年4月に「ジーテクト サプライヤーCSRガイドライン」を策定し、展開致しました。主要サプライヤーには自己点検アンケートの回答にもご協力頂き、現状の確認をしました。今後もサプライチェーンの課題の把握とその解決を目指し、サプライチェーンの強化に努めます。

取引先とのコミュニケーション

チームジーテクトとして厳しい環境を勝ち抜くために、お取引先との情報共有の機会を常に設ける事により、コスト競争力・安全・品質の強化に取り組んでおります。またお取引先とのコミュニケーションの一環として、毎年取引先懇親会を開催し、ジーテクトの方針説明を実施いたしております。

新春取引先懇親会の様子

従業員の VOICE

マザーとしての品質保証部の役割

品質保証本部　品質保証部　品質保証課　中祢　敦

私はジーテクト語学留学生としての経験を活かして、海外拠点の品質実績の取りまとめと情報のやり取りを担当しています。具体的には、各拠点から不具合情報を一手に集め、その集計及び分析を行っております。その他にも、ISOに代表される品質マネジメントシステムの管理や国内外のQCサークル活動の推進等、幅広い分野から会社全体の品質を支えています。各拠点の品質の維持向上の為、現地と共に一つずつ改善を進めて行く事が品質保証部の仕事と考え、これからも品質情報の迅速な分析と共有に努めていきます。

human rights/labor practices

人権・労働

G-TEKTフィロソフィーに「人間性尊重」を掲げ、この理念を従業員のみならず、仕事を進める人々や企業との関係にも適用し、公平・公正で働きがいのある職場づくりに努めます。
また、人権に関する法令、社会規範、社内規定などの遵守を徹底し、公正で誠実な事業活動を推進していきます。

人権の尊重

「わたしたちの行動指針」に人権の尊重を定め、法令順守はもとより、諸外国の慣習、文化、宗教、生活様式を尊重するよう明記しております。

また、合わせて、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントなどのいかなるハラスメントも行わないことを明記しています。

ダイバーシティ

当社では、ダイバーシティはイノベーションの源泉であると考え、性別・国籍・職歴・年齢・性格・価値観など、外面あるいは内面の違いを「その人がもつ個性」と捉え、それぞれの個性を尊重していくことが重要としています。今後も多様な力を結集し、グローバル市場の多様なお客様のニーズに応えていきます。

女性活躍推進法に基づく行動計画

「真のグローバル企業」をめざすべく、企業を支える人領域の強化を重要な経営課題として位置づけて取り組んでいます。日本においては女性活躍を重点課題の一つと捉え、「女性採用強化」「育成強化」「継続就業・働き方改革」を取組みの柱として取り組んでいます。

人材育成基本方針

① 目指す人材像に向けて社員の能力開発を図り、世界トップ水準の車体部品とトランスミッションの専門メーカーとして相応しい人材を育成する。
② 社員は自ら学び、自ら考える意欲と姿勢を持ち、会社は社員一人ひとりの成長を積極的にサポートする。
③ 階層教育と職場でのOJT及びOFF-JTとしての研修及び自己啓発からなる部門教育に加え制度化したジョブローテーションにより「学ぶ風土」「育てる風土」を醸成し、人材育成重視の文化を定着させる。

特定したマテリアリティ「人材育成」対応

ジーテクトでは、5年先、10年先のキャリアプランを見据え、新入社員研修時から「次の時代に価値を生み出す人材の育成」を念頭に、階層別研修、そして当社の特徴であるグローバル基礎教育からなる人材育成制度を設けております。また、人材育成を支援する為のデジタルツール(HUMAN CAPITAL MANAGEMENTシステム)を導入し、運用を開始致しました。個人別アカウントを設けることで、上司と本人の相互アクセスが可能となり、タイムリーに成長度を確認できるほか、目標を共有することで、上司には教育を、本人には自己研鑽を促します。これらを活用し、計画的・効率的かつ自主的な育成を展開し、「グローバル経営人財」及び「次世代経営陣」の育成に力を入れてまいります。

従業員の VOICE

従業員エンゲージメントの向上

事業管理本部　人材開発部　人材開発課　反町 聡

変化の速いビジネス環境の中で企業が持続的に成長していくためには、グローバルで通用する「熱意・誠実さを持つ次世代リーダー」が必要不可欠です。そして、その「人財」を育て上げていくことが、我々「人材開発部」のミッションです。従業員一人ひとりの気持ちを大切にして、皆が「楽しく・忙しく」働くことでエンゲージメントの向上に繋がるように、そして多様なお客様のニーズに応える魅力的なジーテクトであり続けるように、「志」を持って取り組んで参ります。

Environmental

環境

地球環境の保全を最優先とし、低炭素社会の実現を目指します。

環境理念

当社は、地球環境及び地域環境の保全を最優先課題と捉え、緑あふれる地球を未来に残す責任ある一員として、「地球は我等の共通の広場なり」をスローガンに、環境に配慮した事業活動と地球環境保全の両立を目指します。

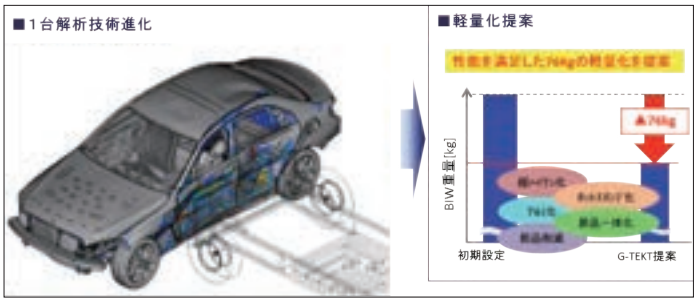
環境方針

1. あらゆる事業活動から生ずる環境側面への影響評価を行い、自主的な改善計画を策定し、積極的な環境保全に努めます。
2. 関連する環境法規制、その他の要求事項を遵守し、自主管理基準を設定し、環境汚染の未然防止に努めます。
3. 環境目的・目標・実施計画を設定し、継続的な改善を行うことにより環境への負荷を軽減し、環境と調和する事業活動を目指します。また、それらは必要に応じて見直します。
4. 環境教育や啓蒙活動を実施し、全従業員及び当社で働く全ての人への環境方針の理解と情報の周知をします。
5. 環境情報は社外へ開示いたします。また地域や社会との交流を図り、環境保全活動に積極的に協力します。

特定したマテリアリティ「環境配慮製品・技術の開発」対応

車の燃費は重量によって大きく左右されてしまいます。自動車の開発段階において、当社では独自の解析技術により、性能は落とさずにボディの軽量化を実現することで、環境負荷の少ない製品づくりを行っています。

一例ですが、モデルチェンジのタイミングでカーメーカー様に対して、約76kgの軽量化を提案することが出来ました。更なる軽量化を目指すとともに、これからも環境に配慮した製品・技術の開発を進めてまいります。



従業員の VOICE

品質改善業務を通した環境活動

生産本部　品質課　**前林　舞**

品質課では、日々現場で生産される製品が規格通りの品質を保たれているかのチェックをしています。この日常業務と地球環境がどのようにして結び付いているのか、初めは全くわかりませんでした。品質を保つという事は、不良品を出さないという事。要は廃却品を出さないという事なのです。これにより生産時のエネルギー使用量や鉄(資源)をムダにしないという事につながっているということに気付き、日々の仕事に取り組めるようになりました。

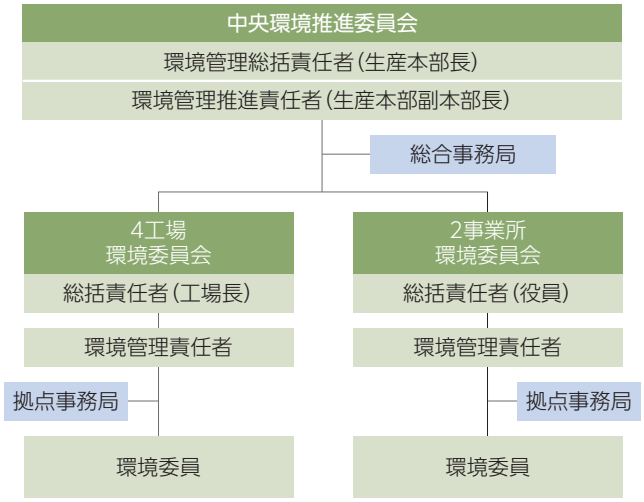
オールジーテクトでの環境マネジメント体制

ジーテクトでは、地球環境問題を企業が取り組む最優先課題として考え、国内では、1998年からISO14001環境マネジメントシステム(EMS)の認証取得を進めて来ました。各工場はISO14001EMSの環境委員会を単位として、各工場長が環境管理総括責任者を兼任し、環境のコンプライアンスや改善活動を継続的に進めています。これに本社とC&C栃木の2事業所を加え、これらの上位組織として中央環境推進委員会を設置し、全社的な地球環境改善活動に関する事項を統括しています。

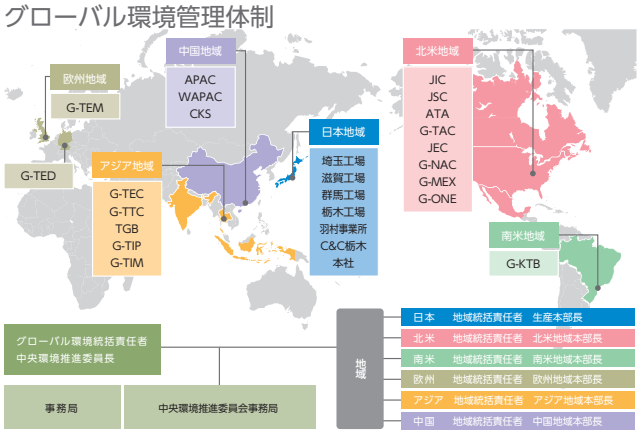
また、2014年6月より「世界環境安全会議」を発足させ定期開催し、各海外地域本部長を責任者として、グローバル全体における環境マネジメントの強化と情報共有に努めています。

なお、2017年4月からは「グローバルCSR会議」へと移行して活動を強化して参ります。

ジーテクト国内環境管理体制



グローバル環境管理体制



ISO14001認証取得状況

(取得年月、移行年月)

国内サイト		ISO14001:2004	ISO14001:2015
栃木工場		1998年12月	※2017年12月移行予定
埼玉工場 羽村事業所1・2 羽村事務所		1999年4月	2017年4月移行
滋賀工場		1999年4月	2017年4月移行
群馬工場		2004年12月	2016年12月移行
海外サイト		**ISO14001:2004**	**ISO14001:2015**
北米	JEC	2003年1月	※2017年11月以降予定
	JIC	2006年1月	※2017年秋頃移行予定
	JSC	2015年4月	※2018年中移行予定
	ATA	2009年5月	※2017年8月頃移行予定
	G-TAC	—	※2017年以降取得予定
	G-NAC	—	2017年3月
	G-ONE	—	※2017年6月取得予定
	G-MEX	—	※2017年9月取得予定
南米	G-KTB	2011年2月	2017年2月移行
欧州	G-TEM	2002年12月	※2017年9月頃移行予定
アジア	G-TIP	—	※2017年11月頃取得予定
	G-TEC	2001年1月	※2017年中移行予定
	G-TTC	2005年11月	※2017年中移行予定
	TGB	2006年2月	※2017年11月頃移行予定
	G-TIM	—	2017年1月
中国	APAC	2004年7月	2016年12月移行
	WAPAC	2008年1月	※2017年7月取得予定
	CKS	2009年2月	※2017年中移行予定

ISO14001登録証

埼玉工場
埼玉工場羽村事業所1・2
羽村事務所

G-TEKT環境ロードマップ

環境基本理念：「地球は我等の共通の広場なり」の実現へ

環境目的を定め、目標に向けた環境活動計画に基づき、継続的改善活動を推進しています。

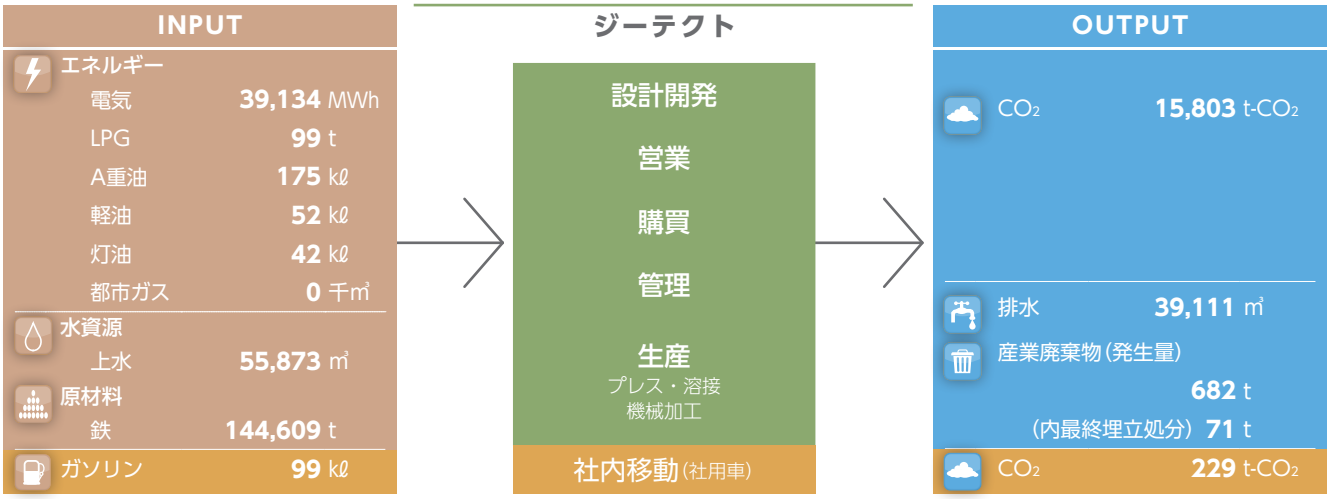
【2020年Vision G4-20】
Green（環境・安全・社会貢献）
環境/安全に配慮した事業展開

【全社重点目標】
環境負荷と環境リスクの低減

【各事業所の環境目的】
1．水質汚濁の防止
2．工場騒音・振動の防止
3．エネルギー消費量の削減
4．廃棄物の低減(3R)
5．地域社会貢献

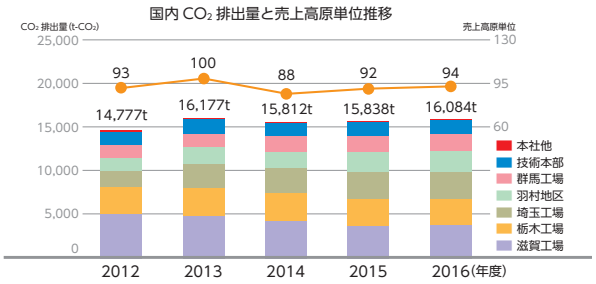
領域	内容	計画 / 実績	2014 年度	2015 年度	2016 年度
生産	温室効果ガス(GHG)排出 売上高原単位の低減	目標	1%改善（'13年比）	2%改善（'13年比）	3%改善（'13年比）
		実績	12.5%改善	8.1%改善	5.8%改善
		評価	◎	◎	◎
	グローバル環境管理体制強化	目標	・グローバルでの削減展開 ・環境データ精度UP	削減展開	継続
		実績	・世界環境安全会議発足 ・海外環境データシステム構築準備	・世界環境安全会議にて 環境改善事例の共有化	・世界環境安全会議にて 環境改善事例の共有化
		評価	◎	◎	◎
環境 マネジメント	騒音振動、水質汚濁、土壌汚染、大気汚染公害、廃棄物処理等の環境問題を発生させない	目標	環境法令順守 社外流出、苦情件数ゼロ	環境法令順守 社外流出、苦情件数ゼロ	継続
		実績	環境問題ゼロ	環境問題ゼロ	環境問題ゼロ
		評価	◎	◎	◎
	ISO14001 EMS 2015 改訂版への移行	目標	準備	システム再構築	システム移行
		実績	情報収集	システム文書見直し	埼玉工場・羽村地区、滋賀工場、群馬工場の3サイト移行済み
		評価	◎	◎	◎
企業活動	生物多様性への対応	目標	取り組み指針の策定 準備及び活動展開	活動展開	継続
		実績	・ガイドライン発行 ・活動開始	森林づくり活動、他の実施	森林づくり活動、他の実施
		評価	◎	◎	◎
	社会への発信	目標	環境(CSR)レポート 発行への準備	CSR報告書2015の発行	CSR報告書2016の発行
		実績	情報収集及び準備	2015年6月初版発行済み	CSR報告書2016を発行済み
		評価	◎	◎	◎

マテリアルフロー（※2016年度実績値）



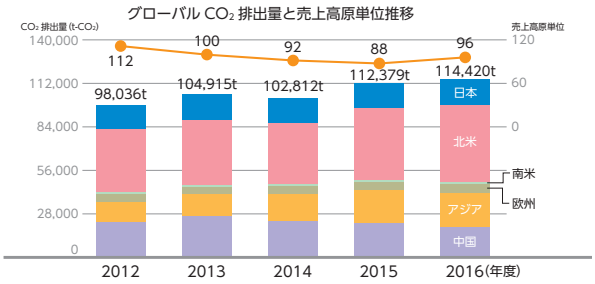
温室効果ガスの低減(国内)

国内でのCO_2排出量は、2013年度比で原単位(売上高当り)毎年1%の削減を目標に展開しています。2016年度は主要得意先の増産等により量産売上の増加があったものの全体の売上高の減少等により、2013年度比で原単位は5.8%の削減となり、CO_2排出量は93tの削減となりました。



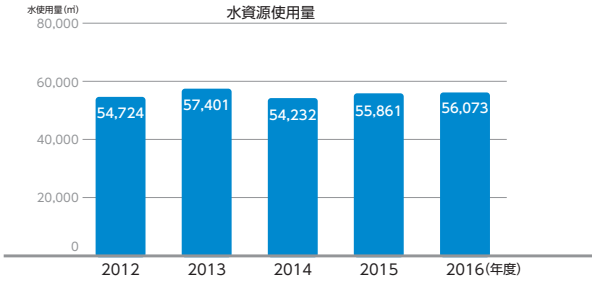
温室効果ガスの低減(グローバル)

グローバルにおけるCO_2排出量は、2013年度を基準に原単位(売上高当り)で毎年1%の削減を目標に展開を始めました。2016年度、欧州では主要得意先の増産、北米での堅調な生産によりCO_2排出量が増加。また為替の影響もあった事から2013年度比で原単位は4.1%の削減となり、CO_2排出量は9,505tの増加となりました。



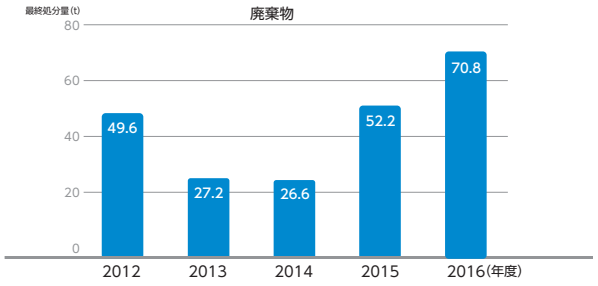
水資源使用量の低減

貴重な水資源の使用量低減活動から間接的に給水場のポンプ使用エネルギーの削減につなげています。また見える化により、構内の水道管水漏れ箇所の早期発見などにも役立てています。2016年度は、埼玉工場において冷却水水槽の補給水設備の故障を早期発見することが出来ました。



廃棄物の低減

不要物の3R(リデュース、リユース、リサイクル)による廃棄物の低減を推進しています。下表は、最終埋め立て処分となる汚泥の中間処理前の引き取り量です。2016年度は、ホットスタンプの本格量産により増加しています。今後は、廃棄物発生低減に向け、脱水する装置を導入することを検討しています。



注) 数値は中間処理前の引き取り量

グリーン調達の取り組み

サプライチェーン全体での製造過程における環境負荷の低減をめざすグローバルなモノづくりを推進し、持続可能な社会の実現に貢献したいと考えております。グリーン調達は、この活動の一環として、積極的に環境保全活動に取り組んでいるサプライヤーの皆様から、化学物質の適正使用、生態系の保全、環境負荷のより少ないプロセスを経て製品を調達することを目的として取り組んでいます。

環境改善取り組み

工場天井灯のLED照明機器への入替による消費電力の削減

埼玉工場は、2016年度より埼玉県の目標設定型排出量取引制度の対象事業所となり、基準排出量に対し2019年度までの目標削減率毎年6%、年間240t-CO_2の排出量削減が求められています。これを達成すべく、工場の天井灯をメタルハライド照明からLED照明機器への入替えを3期に分け計画し、2016年度はプレス棟176灯中40灯、溶接棟195灯中52灯を交換しました。

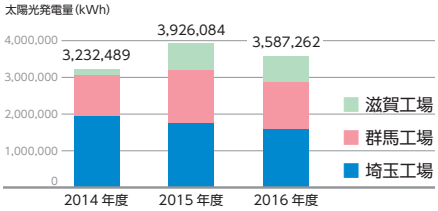
ソーラーパネル設置による、二重効果での CO_2 削減

中国のAPAC、WAPACでは、2015年1月より、国の制度に協力した屋根貸しによるソーラー発電の使用を開始。ソーラーパネル設置により、ソーラー発電効果（自家消費）と直射日光をカットする断熱層効果の二重効果があるため、中国地域のCO_2削減に大きく貢献しています。

地球温暖化対策

地球温暖化対策の取り組みの一つとして、CO_2排出量を削減できる発電という観点から、工場の屋根上にソーラーパネルを設置し、発電事業を2014年から行っています。サブ効果として、屋根からの太陽熱を遮れるため、工場の室内温度上昇が抑えられ夏場の空調機器の負荷低減にもつながっています。

	埼玉工場太陽光発電所	群馬工場太陽光発電所	滋賀工場太陽光発電所
国内拠点			
系統連系開始日	2014年3月31日	2014年4月25日	2014年12月5日
太陽電池容量	1,605kW (245W×6,552枚)	1,306kW (245W×3,920枚, 250W×1,386枚)	602kW (245W×2,408枚)
最大発電出力	1,500kW (PCS：500kW×3台)	1,000kW (PCS：500kW×2台)	500kW (PCS：500kW×1台)
2016 年度発電量実績	1,594,517kWh	1,302,469kWh	690,276kWh
CO_2換算量	805 t-CO_2	658 t-CO_2	360 t-CO_2



太陽光発電量実績推移

ジーテクトの生物多様性の取り組み

ジーテクトでは、最重要課題である地球環境保全の中で、自社の事業活動が影響を及ぼす可能性のある「生物多様性」について、2014年度より「G-TEKT生物多様性ガイドライン」を定め、更なる取り組みに着手し始めました。

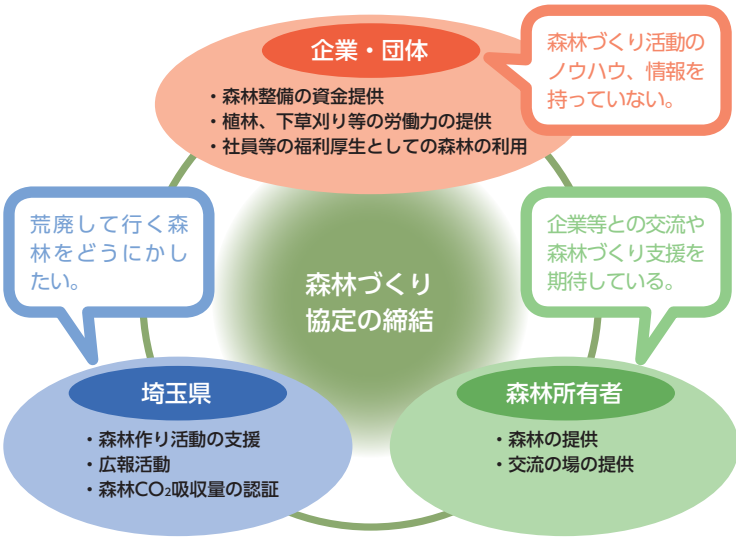
G-TEKT生物多様性ガイドライン

G-TEKTは、「G-TEKT環境理念」における「地球環境保全」の重要な取り組み課題として「生物多様性の保全及び持続可能な利用」を認識し、事業活動との両立を図っていきます。

重点取り組み

1. **環境先進技術の追求**
   業界TOPの環境負荷の低い商品開発と量産化により、生物多様性の保全に貢献していきます。
2. **事業活動における取り組み**
   生産効率向上の追求により環境負荷を低減し、生物多様性に及ぼす影響の低減及び持続可能な利用に努めます。
3. **地域社会とのコミュニケーション**
   地域社会と連携した環境保全活動並びに社会貢献活動に積極的に協力し、地域社会との交流を図っていきます。

ジーテクトの森林(もり)づくり



埼玉県「企業の森林づくり」の仕組み

ジーテクトでは、生物多様性の取り組みの一環として、 2014年から「企業の森林づくり」活動を開始しました。

「企業の森林づくり」とは、森林づくり活動の場所を提供する市町村等および活動を支援する県、森林づくり活動を行う企業・団体の3者が協定を結び、協力して森林づくりを行う取り組みです。

私たちジーテクトは、『未来の子どもたちに、緑あふれる地球を引き継いでいく』をスローガンに、この取り組みに参加しています。

弓立山山頂付近に設置している、埼玉県産木材を使用した看板

埼玉県森林づくり協定

● 協定の締結

[埼玉工場・羽村地区・本社・群馬工場]

2015年2月4日に「埼玉県森林づくり協定」を埼玉県、ときがわ町と締結しました。

● 活動実績

[埼玉県ときがわ町弓立山にて]

弓立山(標高420m)は2013年5月の森林火災により、約7.6haの焼失被害を受けました。この山を再生すべく、2015年4月よりジーテクトの森林づくり活動を開始しました。2016年4月23日には第3回「ジーテクトの森林づくり」植林活動を実施し、埼玉工場・羽村地区・本社・群馬工場の社員47名が参加して、ときがわ町の花「ミツバツツジ」や町の木「ヤマモミジ」等の広葉樹101本の植林を行いました。

また、10月1日には「第4回ジーテクトの森林づくり」活動を実施し、社員28名にて、苗木周辺の背の高くなった雑草を長柄刈払鎌を使って下刈を行いました。

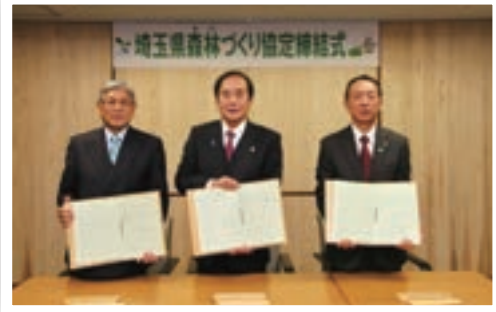
この他に、公益社団法人埼玉県農林公社と管理事業委託をしており、2016年度は合わせて、231本の植林実績となり、埼玉県より6.9t-CO_2の吸収量認証を受けています。

埼玉県森林CO_2吸収量認証制度

● 2017年度の活動予定

・4月「第5回ジーテクトの森林づくり」植樹活動(実施済み)

・9月下旬「第6回ジーテクトの森林づくり」下刈り活動予定



埼玉県森林づくり協定締結式

写真左から、㈱ジーテクト 菊池会長(当時社長)、埼玉県 上田知事、ときがわ町 関口町長

「第4回ジーテクトの森林づくり」下刈り活動

記念植樹「ミツバツツジ」高尾社長

琵琶湖森林づくりパートナー協定

● 協定の締結

[滋賀工場]

2014年12月10日に「琵琶湖森林づくりパートナー協定」を滋賀県、大野山林財産区管理会と締結しました。

● 活動実績

[滋賀県甲賀市土山町大野山林にて]

2017年3月3日に「第3回琵琶湖森林パートナー」植林活動を実施しました。滋賀工場の社員15名が参加し、桜の苗木を15本植樹。

また、鹿などの動物に荒らされないように周辺をネットで囲う作業を行いました。

「第3回琵琶湖森林パートナー」植林活動

social contribution activities

社会貢献

地域社会との共生で次世代へ引き継げる社会貢献を継続します。

国内での取り組み

地域社会の皆様との交流を図り共に発展して行く事も大切な事と捉え、各事業所では様々な活動に取り組んでいます。

滋賀工場

滋賀県が条例で定めている「びわ湖の日」・「環境美化の日」では、湖南市、甲賀市の企業・行政が協働で行う清掃活動に参加しました。地域環境美化活動では青土ダム周辺の清掃活動に23名が参加しました。

滋賀工場　地域環境美化活動

栃木工場

鬼怒川河川敷公園清掃活動に参加しました。30名が参加し、公園及び、河川敷の清掃を行いました。工業団地美化にも努め、さくら市の「お丸山公園再生計画」に参画しています。

栃木工場　鬼怒川河川敷公園清掃活動

C&C栃木

鬼怒川・小貝川クリーン大作戦では26名が河川敷の清掃活動に参加しました。情報の森の定期清掃活動を毎月1回行っています。

C&C栃木 鬼怒川・小貝川河川敷清掃

羽村事業所

羽村市ポイ捨て禁止等マナーアップの活動に参加し、羽村駅前にて啓発グッズの配布をしました。昨年に引き続き、「花いっぱい活動」へも参加し、道路脇花壇の清掃や雑草抜きを行いました。

羽村事業所　咲き終わった花の抜き取り作業

埼玉工場

生物多様性への取り組みとして、弓立山にて植林活動を実施し、ジーテクトの森林づくりでは下刈り活動を行いました。

埼玉工場　植林活動

群馬工場

スバル地域交流会主催の金山清掃に11名で参加しました。昨年の総勢800名を上回る820名の参加で、盛大に開催され、雑草除去作業を行いました。花いっぱい活動では、花苗120株を年間で3回購入し、工場内に直植しました。

群馬工場　金山清掃

海外での取り組み

当社では、国内だけでなく、北米・欧州・アジア・中国・南米の各地域で、環境安全会議を実施し、環境保全活動に取り組んでいます。また、地域社会への貢献活動も積極的に実施しています。北米では「特集(p9,10)」でご紹介した活動以外にも、チャリティーオークション・植林活動を実施しています。欧州では、就職支援活動・福祉貢献活動・地域環境貢献活動を実施しています。中国では、省エネ・CO_2削減の取り組みを実施するとともに、社会貢献の取り組みを実施しています。南米でも環境改善活動を積極的に推進するとともに、児童福祉施設への寄付を始めとした社会福祉活動を実施しています。

欧州

チャリティーケーキの販売

学生との交流(工場見学等)

地元児童クラブへのサポート
(フェンス溶接修理の様子)

中国

開発区バスケット場で
日中親善試合を開催

地元小学校へ賛助金を贈呈

成績優秀児童の奨励と
生活困難児童への援助

南米

孤児院にて歯科衛生士と
虫歯予防教室を開催

歯ブラシや
衛生用品の寄付

従業員に対し、
癌の講習会を実施

アジア

ワンボンダムへ植樹活動

地元農家支援の為、
1tのお米を買付

食料品の詰め合わせを
近隣4村へ寄付

third party an opportunity to submit

第三者意見

麗澤大学経済学部・大学院経済研究科教授
麗澤大学企業倫理研究センター副センター長
博士（経営学）

倍　和博（ばい かずひろ）

2001年麗澤大学に奉職、現在に至る。ICBM（International Conference on Business Management）Vice-President、経営関連学会評議会評議員他。2008年豪ボンド大学経営学部客員教授。著書に『CSR会計への展望』森山書店、“*Deployment of Financial Reporting Theory based on Global Governance*”『CSRマネジメントコントロール』『永続企業の条件：環境変化に打ち克つ５原則』以上麗澤大学出版会など多数。

株式会社ジーテクト（以下、同社）は、2020年ビジョンとして「G4-20」を掲げ、持続的な成長と進化を目指す取り組みを「CSR報告書」として整理されています。CSR活動の定量化を試みるCSR会計と永続企業経営を促進する立場から、以下に第三者意見を申し述べます。

高く評価できる点

今回の報告書で評価できる点は、第一に、CSR活動に対する考え方を事業活動との関係から明確化していることです。同社が目標として掲げる「2020年ビジョン」に「3つの分野におけるイノベーション（革新）」と普遍的な目標である「持続的な成長と進化」を新たに追加したことは（pp3-4）、CSR活動強化を通して事業活動を推し進めるという強い信念、そして中・長期的なビジョンで企業体質の強化と持続可能な成長を目指す企業風土作りにかける熱意が伝わります。第二に、グローバルな視点を加味した点は評価に値します。CSRテーマ全般を討議するための場として「グローバルCSR会議」が設置された経緯を説明し（pp3-4）、世界規模で展開するCSR活動の実践へと結びつける試みは大変興味を掻き立てられる内容となっています（「特集2」：pp9-10）。同社の重要な活動拠点のひとつである北米地域の社会貢献活動と連携させたグローバルなCSR活動は、全社的な取り組みの推進に止まらず、持続可能なグローバル社会の実現を目指す他社の参考にもなることでしょう。

最後に、CSRに対する想いからCSR活動を加速度的に推進する「第3次中期経営方針」へと展開させ（「特集1」：pp7-8）、コーポレートガバナンスをはじめとする具体的な取り組みへと議論を進める本報告書の構成を高く評価します（p11～）。昨年度指摘した「ステークホルダーに対する遡及効果をこれまで以上に高める工夫（仕組み）」と「個々のCSR活動の成果と業績や業務改善との関係性をより分かりやすく、具体的に説明する」という課題に真正面から取り組む姿が投影されているからです。同社のCSRへの取り組みは年々進化を遂げており、コミュニケーションツールとしてのCSR報告書がCSR活動の推進レベルを伝達する効果的な役割を果たしています。

今後の改善に期待する点

今回の報告書には重要なキーワードとしてグローバルなCSR活動の展開が挙げられていますので、この点を中心に今後検討していただきたい点を申し述べます。現在、世界各地で事業を展開する企業は自社に最適な会計基準を適用する傾向にあり、グローバル企業の業績評価を適正に行うことは困難な状況にあります。そうした中、会計基準によって生じる財務諸表数値の歪みを補正して理解しやすい情報を開示する「代替的業績指標（Alternative Performance Measures：APM）」に注目が集まっています。CSR活動と事業活動との関係性をより分かりやすく説明することは、企業間の業績比較を行う際には必要不可欠な取り組みです。グローバルな事業展開を視野に入れた場合、代替的業績指標の開発やCSR活動と代替的業績指標との関係性、さらには代替的業績指標の主要業績指標（KPI）としての開示に目を向けることは今後より一層重要となります。こうした課題も検討事項に加えながら、2020年ビジョンの達成に向けて独自のCSR活動を推進されますことを祈念しています。

VOICE

第三者意見を受けて

経営企画室

倍先生、弊社の「CSR報告書2017」に対し貴重なご意見を賜り大変ありがとうございます。
昨年は、次中期経営計画仕込みの中、特定したマテリアリティの事業計画反映、又体系的なCSR活動を目指した体制見直し等の活動を進めてまいりました。「CSR報告書2017」では、こうした取組みをどうステークホルダーの皆様に伝えるか苦労しましたが、倍先生より「コミュニケーションツールとして効果的な役割を果たしている」といったご意見を頂き、大変心強く思っております。
今後も引き続き、ご指摘頂いた改善点を尊重し、積極的にCSR活動を進めるとともに、ステークホルダーの皆様が当社の活動をより理解して頂ける様、CSR報告書の充実を図ってまいります。

株式会社ジーテクト

〒330-0854　埼玉県さいたま市大宮区桜木町一丁目11番地20
大宮JPビルディング18階
TEL：048-646-3400(代)
http://www.g-tekt.jp/

この冊子は環境保全のため、FSC®認証紙を使用しています。
見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを
採用しています。